

HANSHIN DE YASHIKI

阪神出屋敷

小林可夢偉 エピソード

KAMUI K. BAYASHI EPISODE

プロフィール

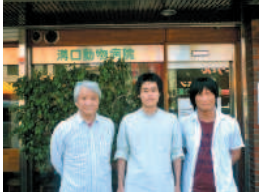
1986年:兵庫県尼崎市生まれ。
 1996年:9歳でカート始める。
 1999年:尼崎市立竹谷小学校卒業
 2002年:15歳の時に「限定A級ライセンス」を取得
 尼崎市立明倫中学校卒業(現 尼崎市立中央中学校)
 2004年:フォーミュラローノイタリ選手権に参戦(7位)
 2009年:GP2アジアシリーズチャンピオン
 この年10月の第16戦ブラジルGPでトヨタからF1デビュー
 同年F1第17戦アブダビGPで6位入賞
 2010年:BMWザウパーF1チーム所属
 同年F1入賞計8回・ランキング12位
 2011年:現在、ザウパーF1チーム所属
 F1参戦中

EPISODE1

『幼少時代』
 自宅近くの「北竹谷公園」では、幼いころからお父さんと良く遊んでた可夢偉選手。当時の愛車は三輪車。そのパワート走りは公園内に止まらず、国道2号線沿いや、出屋敷駅へ伸びるバス通りをも走りまわっていたと、当時の目撃情報も、今もこの界隈の伝説です。



「溝口動物病院」の次男と小学校前からの幼馴染み。彼によると、幼いころから運動神経は抜群で負けず嫌いだった。



院長先生による当時の印象は、いつも動物病院の前を三輪車で猛スピードで駆け抜け、その後ろを次男や可夢偉のことが走って追いかけていて、まさに近所のガキ大将だったそうです。



喫茶店「サントピア」は可夢偉選手のお父さんがコーヒーを飲む時よく一緒に連れて行ってもらった馴染みのお店。自宅への帰り道に近道をしようと、入口から入ってカウンターを通り裏口から自宅へ戻ってました。サントピアさんでは可夢偉選手が持ち帰る用のお菓子をカウンターに用意していたとか。



自宅近くの尼崎の町商店街「三和本通商店街」は、言うならば幼少の可夢偉選手にはホームサーキット。南北に延びるアーケードの南側は緩やかにカーブしており、まさにここが130R。今その商店街には「カムイロード」という愛称が付けられました。



その走りは商店街の通りに止まらず、文具店の「栗山商店」の、ところ狭しと置かれた商品の間を三輪車で突入。シケインの練習場と化していたようです。



KAMUI K. BAYASHI

小林可夢偉

PHOTO: Atsuo Sakurai



幼少の可夢偉選手にとって、ホームサーキットであった「三和本通商店街」

<カートをはじめた頃の可夢偉選手



自宅への帰り道に近道したといわれている喫茶店「サントピア」

この頃には既に大人顔負けの強さ>



小林可夢偉選手の家が隣っていた馴染みの居酒屋「やまちゃん」



幼少時代はお父さんと色々なお店で...



小林可夢偉選手のお気に入りのお店焼そば・お好み焼きの「あたりや」



カートで力をつけGPを視野に...

EPISODE3

『尼崎寺町地区とたこ焼き』
 尼崎の商店街を中心とした繁華街から、阪神電車の線路を越えると「寺町」地区になります。

尼崎城を築城した際に11の寺が集められたに、江戸時代の城下町の街並みと下町情緒が融合し、タイムスリップしたかのような別世界がひろがっています。

その寺町の一角に「たこやきの岡」があります。可夢偉選手はこのお店の醤油

味のたこ焼きが子供の頃からお気に入り。実家の寿司屋の配達を手伝っていた際に、たこ焼きを食べに立ち寄った事もあったそうです。

F1デビュー後も、尼崎に帰省した際にに必ずと言っていいほど「たこやきの岡」に立ち寄るそうです。

外国人の友人、関係者を連れてこっそりと訪れたこともあるとか。その時、可夢偉選手は店主に「車関係の仕事をしている」とだけ話していたそうです。

その様子を偶然見た近所の人が、可夢偉選手が帰った後でF1レーサーというのを店主に伝えたそう、それを知った店主さんはとてもびっくりしたエピソードがあります。



毎年8月1日・2日に貴布禰神社にて行われる可夢偉選手が大好きな「たんじり祭り」

幼少の頃から近所のたんじり祭りには積極的に参加していた!!

EPISODE5

『2010年8月 尼崎凱旋イベント』
 2010年夏の帰省時に、尼崎市の当時の市長の表敬訪問と、三和本通商店街で凱旋イベントが行われました。

三和本通商店街では中央中学校(当時は明倫中学校)のプラスバンド部の演奏のなか、アーケードをパレードしました。

アーケードの北の端からスタートし、南に位置する「メイドインアマガサキショップ三和店」内の期間限定で行った「特設F1パネル展示」の会場までパ

レードし、おかえり可夢偉さん!のくす玉開きが行われました。

その時の帰省の際の、忙しいスケジュールの合間に、「タカラブネ」に自ら訪れ、この店のオリジナルのご当地ロールケーキ「尼崎ロール」を10本まとも買っています。ふわふわの食感とたっぷりの生クリームが話題のご当地ロールケーキです。



EPISODE2

『カートからGP時代』

居酒屋「やまちゃん」は可夢偉選手のお父さんが学生時代からの馴染みのお店。可夢偉選手が幼少のときから、小林家が一家揃って良く訪れているお店です。そんな、やまちゃんのご主人は大の車好きで、カート時代からの可夢偉選手の大ファンで、F1以前の可夢偉選手のレースを良く知る人物です。小学生の時の可夢偉選手とカートで勝負し、大差で負けてしまい、その実力を実感したそうです。

可夢偉さんがイタリアに行くまでは、実家の寿司屋「えびすや」の手伝いをしています。当時は配達なども行っ

ていたようです。その頃、えびすやを利用していたお客さんも、まさか世界のF1レーサーがお寿司を選んでいただとは思像もしてなかった。尼崎の出屋敷界隈では「あの時のお兄ちゃんがF1レーサーになったとは驚いた!」といった声も聞きます。

出屋敷の焼きそばとお好み焼き屋のお店「あたりや」は当時からの可夢偉選手のお気に入りのお店です。元々は焼きそば屋さんとして始まったというこのお店の、こだわりの焼きそばがお気に入りだそうです。

家族や友人と訪れ、お店のスタッフとも気さくに話をする、そんな尼崎の地元っ子らしい可夢偉選手の姿は店主の記憶にもしっかり残っているそうです。関西特有の粉もん好きだった。



尼崎城を築城した際に11の寺が集められた「寺町」

F1デビューしてから地元で食べられる「たこ焼きの岡」

EPISODE4

『貴布禰神社』
「貴布禰神社」では、毎年8月1日2日にたんじり祭りがおこなわれます。

たんじり同志をダイナミックにぶつけあい、力を競い合う「山合わせ」が行われる地元では有名なお祭です。

可夢偉選手も幼いころから毎年参加していました。たんじりが大好きで、周りの大人たちの心配をよそに、たんじりの屋根に登って祭りを盛り上げたこともありました。子供の頃から、一人倍の度胸を持った、可夢偉選手らしいエピソードです。

レーサーとして活躍はじめてからも、このお祭りにあわせて実家に帰省していたほど、思い入れがあるお祭りです。毎年レース前には貴布禰神社にレースの安全と、必勝を願って、お参りしていたそうです。

そして、2011年3月6日には、レース前の必勝祈願を行いました。

ヘルメットを御神前に奉り、可夢偉選手の家族や地元の関係者が参列し、厳かに執り行われました。



プラスバンド部とともにアーケードを凱旋パレードした可夢偉選手。その日、可夢偉選手の特設F1パネルが展示された「メイドインアマガサキショップ」

MIAショップ前に、たくさんのファンが可夢偉選手を歓迎!!